

実施年度	実施主体	対象獣種
R8～R9	大町市	シカ、イノシシ

現状・課題

これまで市は独自にICTを導入し、生態調査に基づく追い払い及び捕獲を継続して被害軽減に努めてきたものの、捕獲者の高齢化（70歳以上が53%）が進行しており、現在の捕獲体制の維持が困難になりつつある。また、被害情報は年1回の農協報告に依存しているため、対策検討までに最大1年のタイムラグが生じているほか、目撃・被害・捕獲の3つのデータが別々のシステムに分散しており、統合的なデータ分析ができない状況にある。

事業概要

一元化したデータに基づく効果的・効率的な捕獲体制の構築に向け、
 ・プラットフォーム上での目撃・被害・柵整備位置・捕獲位置等の一元的な可視化、
 ・可視化したデータに基づく特定エリアでの重点的な捕獲、
 ・ICTわなによる捕獲位置の自動取得、
 ・対策前後での被害等の変化の比較による定量的な効果検証等を実施。

また、プラットフォーム上で、農業者から圃場単位の被害報告を取得することで、タイムリーな対策の検討に活用。

更に本モデルの運用ノウハウ・データ設定を他自治体が再利用可能なテンプレートとして整備し、長野県内他地域及び他都道府県への横展開基盤を構築。

活用機器 ※交付金活用外の機器を含む

- ・遠隔監視操作・自動捕獲システム
- ・総合プラットフォーム

モデル地区の普及範囲

県内外への普及活動のほか、兵庫県立大学との連携による普及活動を実施

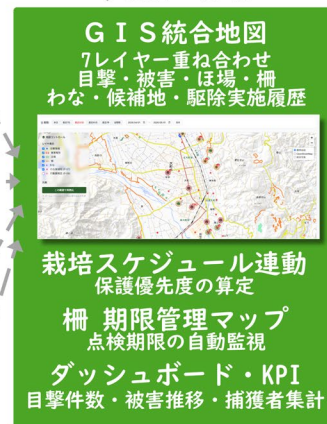
【イメージ】

（総合プラットフォーム）

1, データ収集



2, 統合・分析



3, 意思決定・効果検証

- ①目撃×被害×柵×地図
「どこから獣が来ているか」が見える
- ②ほ場×栽培スケジュール×被害
「いつ守るべきか」がわかる
- ③柵期限管理×目撃×ダッシュボード
「予防的な対策」が可能になる
- ④目撃×被害×捕獲×時間軸
「対策の効果」が証明できる



“「勘と経験」から「データと検証」へ”

（捕獲システム）

